

麻生リハビリ総合病院だより



<https://www.souseikai.net/rehabilitation>

総生会 理念 常に最善を飽くことなく追求し 質の高い安心の医療を提供する

充実した入院生活を送っていただくために、様々な活動をしています！

回復期リハビリテーション病院では、急性期病院に比べて入院期間が長くなることがあります。多くの患者様は毎日リハビリテーションに励んでおり、そうした中で少しでも前向きに張り合いのある入院生活を送っていただけますよう、様々な取り組みを行っております。



昨年の縁日の様子



8月には、毎年大変ご好評をいただいております『縁日』を開催する予定です。ヨーヨー釣りや輪投げ、くじ引き、的当てなど、患者様に楽しんでいただけるような催し物を企画しております。

(感染防止対策をした上で開催予定です。)



～縁日～



季節を感じていただくためのイベントを行っています!!

～過去のイベント例～

書初め 七夕 縁日
文化展 クリスマス など



～音楽療法～



OT（作業療法士）が中心となり、週に1回、昭和音楽大学の学生さんと一緒に音楽療法を行っております。

音楽療法では、音楽の特性を活かし、心理的、生理的、認知的な面にアプローチをしていきます。普段は自発性が少ない方でも、一緒に歌ったり身体を動かしたり、楽しそうに笑顔で参加される姿が多く見られ訓練室とは違ったりリハビリテーションの効果が期待できます。

パーティションの設置やマスク・フェイスシールドの着用を必須とし、感染防止対策をしっかりと行っています。



フルーツやキーボードの演奏♪



～園芸療法～



当院では、園芸療法にも取り組んでおります。病院の周りにお花を植え、患者様にはリハビリテーションの一環として水やりなどのお手伝いをお願いしております。実際にご参加いただくことで、植物の成長や華やかさを感じ、長い入院生活の中で少しでも楽しみや癒やしのひとときとなるように工夫をしています。

正面玄関前に飾られたお花



リハビリテーション専門技術職 言語聴覚士(S T)

当院には21名の言語聴覚士が在籍しています。

リハビリテーション病院(180床)としては多い人数配置と言われており、当院の強みとなっています。

言語聴覚士が多いことで、脳血管疾患患者様のリハビリテーションを充実させることができ、当院の高い診療実績にも繋がっています。

言語聴覚士は①日常生活動作で行う「話す・聴く・読む・書く・考える・行動する」等、基本となる**コミュニケーション手段の獲得**、②食事の「嚙む・飲み込む」等の**嚥下機能の回復**に向けた言語聴覚療法を展開しています。

当院の言語聴覚士は、言語・音声・嚥下機能・高次脳機能障害の改善をメインにリハビリテーションを実施しています。



ST室の様子(様々な検査を実施)



口や舌の体操(嚥下機能を強化)



摂食・嚥下障害についての新入職者研修



嚥下機能の評価 VF(嚥下造影検査)

VF(嚥下造影検査)という飲み込みの検査があります。

バリウムを混ぜた検査用の飲み物や食べ物を実際に食べていただき、X線を照射しながら、どのように口から胃へ運ばれるか一連の流れを録画し確認する検査です。

食べ物を認識し、口の中へ入れ、咀嚼して飲み込み、咽頭→食道→胃へと送り込む一連の流れのどこに障害があるかで、安全に食べられる食形態の種類が調整されます。

嚥下障害には脱水や窒息、誤嚥性肺炎、低栄養のリスクがあるため、安全に食べられる食形態の検討はとても重要です。正しく評価し、STが適切な訓練や摂食指導を行い、在宅復帰に向けてリハビリを実施しています。

【検査用の飲食物】



煮込みハンバーグ
(一口大/一口大とろみ)

ボイルサラダ
(一口大/一口大とろみ)

とろみなし / 弱とろみ
薄とろみ / ヨーグルト

患者様から「パンが食べたい」等の希望があれば、嚥下訓練を行い、VF検査で確認し、飲み込みの機能を評価しています。



【VF装置】



【VF画像】



飲食物が黒く写ります。

「患者サポート・接遇委員会」

当院では患者様・ご家族様からの相談に、有資格者による幅広い対応ができる体制を整備しております。1階ロビーに患者サポートセンターを設置し、患者様・ご家族様とスタッフの円滑なコミュニケーションを促進しております。

「患者サポート・接遇委員会」では、患者様・ご家族様、また職員から寄せられるご意見を基に、多職種でチームとなり、検討・支援・接遇の改善と教育を行っております。

当院は、急性期病院に比べると入院生活は長期に渡ることが多く、その分スタッフと接する期間も長くなります。入院生活をより快適に過ごしていただけるように、患者様の声に耳を傾け、地域からも信頼される病院となるよう接遇の向上に努めています。



【具体的な活動内容・役割等】

- ①メンバー 脳神経内科専門医、看護師、医療安全管理者、社会福祉士、診療放射線技師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、医療事務
- ②委員会の開催 月1回。「患者様からのご意見」「支援・接遇の改善と教育」を検討。
- ③活動内容 定期的な接遇研修や接遇標語の啓蒙活動、院内周知、接遇優秀実践者への表彰など。定期的な患者支援体制に関する取り組みの見直し。患者満足度調査の実施。
- ④患者支援カンファレンスの実施 患者様支援に係わる取り組みの評価等を行うカンファレンスを週1回実施。
- ⑤その他 院内ラウンドを行い、掲示物のチェックや環境調整。屋外歩行訓練などを行っている病院周辺の清掃活動の実施。患者様だけでなく、職員に対しても気持ちの良い環境を整えることで、患者様へのサポート力の向上へと繋げていく。



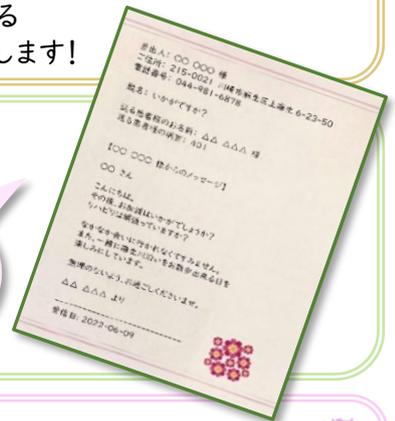
当院は、常に多職種でチーム医療を実践し、入院から退院後の生活までを考えて支援する回復期リハビリテーション病院です。リハビリテーションに取り組む患者様を全力でサポートします！

「お見舞いメール」をご存じですか？

ご入院中の患者様へ「お見舞いメール」をお届けするサービスです。遠方にお住まい、面会制限など、なかなか患者様にお会いできない時にもメールでメッセージをお送りいただけます。当院ホームページよりぜひご利用ください。



このような形で患者様へお届けいたします！



2022年
5月入職

医師紹介

整形外科



玉置 聡
たまおき さとし

日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本人工関節学会認定医
医学博士
関東股関節懇話会幹事



8つの質問で
紹介させていただきます

- ①出身地
- ②好きな季節
- ③今、1番欲しいもの
- ④これがないと困る！もの
- ⑤好きな場所
- ⑥好きな時間の使い方
- ⑦好きな果物
- ⑧苦手なもの・こと

- ①東京都
- ②春・夏
- ③マイホーム・時間
- ④バカ騒ぎできる友
娘の笑顔
- ⑤軽井沢
- ⑥楽しくお酒を飲むこと
美味しい物を食べに行くこと
- ⑦桃・梨
- ⑧娘の夜泣き

診療実績のご報告

直近6か月（2021年10月～2022年3月）の診療実績報告です。

本院が届出をしている「回復期リハビリテーション病棟入院料I」では、実績指数40以上が要件となっておりますが、大幅に上回る実績指数をキープしております。また、在宅復帰率は7割以上が要件となっておりますが、80%を超える高い実績となっております。

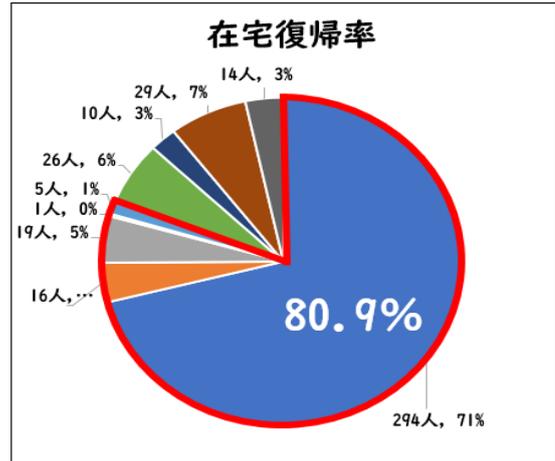
回復期リハビリテーション病棟入院料Iの実績要件		本院の診療実績
リハビリテーション実績指数	40以上	51.6
自宅等に退院する割合	70%以上	80.9%
重症者の割合	30%以上	49.8%
退院時の日常生活機能評価4点（FIM16点）以上改善	30%以上	74.1%

実績指数

2019/4~ 2019/9	2019/7~ 2019/12	2019/10~ 2020/3	2020/1~ 2020/6	2020/4~ 2020/9	2020/7~ 2020/12	2020/10~ 2021/3	2021/1~ 2021/6	2021/4~ 2021/9	2021/7~ 2021/12	2021/10~ 2022/3
44.9	46.2	44.9	45.8	48.7	54.5	54.4	50.1	51.0	52.0	51.6

在宅復帰率（退院先内訳）

在宅復帰	退院先	2021年10月～2022年3月	
		人数	割合
在宅復帰	自宅	294人	71.0%
	特別養護老人ホーム	16人	3.9%
	有料老人ホーム	19人	4.6%
	介護医療院	1人	0.2%
	グループホーム	5人	1.2%
	高齢者専用賃貸住宅		
	急性期病院	26人	6.3%
	慢性期病院	10人	2.4%
	介護老人保健施設	29人	7.0%
	その他	14人	3.4%
	合計	414人	100.0%
在宅復帰 合計	335人	80.9%	



2022年診療報酬改定について

回復期リハビリテーション病棟入院料（施設基準）

	入院料1	入院料2	入院料3	入院料4	入院料5
医師	専任常勤1名以上				
看護職員	13対1以上（7割以上が看護師）	15対1以上（4割以上が看護師）			
看護補助者	30対1以上				
リハビリ専門職	専従常勤のPT3名以上、OT2名以上、ST1名以上		専従常勤のPT2名以上、OT1名以上		
社会福祉士	専任常勤1名以上		—		
管理栄養士	専任常勤1名	専任常勤1名以上が望ましい			
第三者評価	受けていることが望ましい	—	受けていることが望ましい	—	—
リハビリテーション実績指数等の院内掲示等による公開	○				
データ提出加算の届出	○				○
休日リハビリテーション	○		—		
新規入院患者のうちの、重症の患者の割合	3割以上⇒4割以上		2割以上⇒3割以上		
入院時に重症であった患者における退院時の日常生活機能評価※（内はFIM総得点）	3割以上が4点（16点）以上改善		3割以上が3点（12点）以上改善		
自宅等に退院する割合	7割以上				
リハビリテーション実績指数	40以上	—	35以上	—	—
点数	2,129点 (2,115点)	2,066点 (2,051点)	1,899点 (1,884点)	1,841点 (1,827点)	1,678点 (1,664点)

※（内）は生活療養を受ける場合

2022年4月に診療報酬改定が行われました。本院が届出している『回復期リハビリテーション病棟入院料I』に係る変更点は、①「第三者評価を受けていることが望ましい（新規追加）」、②「入院時重症者の割合4割（3割から4割へ要件変更）」となります。①については、本院は以前より「日本医療機能評価機構」の認定を受けておりますので、問題ありません。②についても、ページ上部の診療実績でも示した通り、5割近い重症者の受入ができておりますので、こちらも問題ありません。しかし、重症者4割受入への変更は入院料Iを届出している医療機関にとって大変厳しいものとなりました。これは、より多くの重症者の受入を行い、より多くの患者様に質の高いリハビリテーションを提供することを国から求められている結果だと言えます。本院も引き続き、患者様にとって質の高いリハビリテーションを提供できるよう精進してまいります。

